

◎「八王子神社碑」 (大正八年九月)

(題字) 貴族院議員正三位勲四等公爵 徳川頼倫 篆額

(文章) 伊豆葎山 江川英武 撰

(書) 南多摩郡長 内山由三郎 書

八王子祠はちおうじは由来する処久し。文徳の朝(850～858)平安の僧妙行みょうぎょうという者、海内の名山を歴渉しやへつし錫しやくを武蔵多摩郡深沢山址しに駐とどめ、菴あん(庵)を結び修行す。近旁の士女其の徳を慕あこがい来たり集あまる者多しと曰いう。妙行之を厭いとい避けて山中に入りて住す。老樹陰森鬼気人を襲おそう。夜闌よらん(たけなわ)毎風雷谿谷さんせいもくみに震ふるい山精木魅ま、出没しゅつじつ幻、或いは巨蟒きゆうぼう(うわばみ)盤繞ばんじょう(めぐりまとう)口を開ひらいて啖くわん(喰くう)わんと欲ほす。妙行端然として静座誦經已しんざじゆんきやうます。一夜神人あり自ら牛頭天王と称なづし八王子を率しゆいて蛇を斬きり魍むし(怪物)驅おり来たる。天王は則すなはち素盞鳴尊すさのおのみことにして八子はその五男三女なり。妙行地を此に相あし祠はちおうじを建て之を祭り八王子権現と称す。時に延喜十六年(916)三月なり。明年更に一字を宮みやみ華嚴蔵院けごんざういんと名づけ権現けんげん別に充みつ。天慶二年(939)勅しゆくして扁額へんがく及び田若干を賜たまひ号して牛頭山神護寺ごすざんじんごじと曰いう。天正中(1573～1591)北条氏照居いを此に移うつす。夙しゆくに武勇ぶゆうを尚たもび祠はちおうじを崇たかめ以もつて鎮護ちんごの神となす。因

りて八王子を以って其の城に名づく。豊臣氏関東に向かうや上杉前田の両将、兵を分かちて来たり攻め城陥ち祠亦兵燹へいせん（兵火）に罹なる。元禄中（1688〜1703）伊勢の人鉄山無心なる者あり。遺址について之を修築す。是より祀典絶えずという。頃者ころ元八王子有志等謂わく今茲こんじ（今年）鎮座一千年に当たり悠久の歲月、神の呵か護ご（しかりまもる）する所、以って今日こんにちに迨およぶ。乃ち碑すなわを植たて其徳紀せんと欲すと。余が家曾かって此の地に宰かたるを以って来たりて文を撰せんくらんことを請こう。縁起の書を按し（調）べこれを作る。之が辞に曰いへ。

維れ八王子。権現の祠。高僧之を創め。名将之を崇ぶ。墜典ついでん

（すたれた儀式）茲こゝに拳こぶがり。祭祀衰えず。悠悠天地。靈徳

永へに輝く。